

とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.114

2017
Summer

[巻頭特集]

跳んで、走って、癒やされて
スナバであそぼ。

[特集]

自由にのびのび発信
フレキシブルな僧侶たち



▶ ブッポウソウ ◀

体長約29cm。全身青緑色でくちばしと足は赤。翼に白斑があり、飛翔時によく目立つ。仏教の聖地の森林で観察され、その姿の美しさから平安時代に「仏法僧」の声の主と言われ、靈鳥(神聖な鳥)とされてきた。しかし、昭和時代初期にその鳴き声は「コノハズク」と判明し、現在では「姿のブッポウソウ」と呼ばれている。

参考文献*『とっとりの野鳥』(2003年5月、鳥取県発行)
写真提供*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 桐原 佳介

とっとり NOW

鳥取県総合情報誌 vol.114
2017 Summer



NEW 読者プレゼント・編集後記	NEW 企業紹介	NEW 鳥取のうま味	NEW 鳥取和牛みそ煮込カレー	NEW 太田酒造場	NEW 浜崎慎治	NEW 刀職人 金崎秀壽	NEW Human Life	NEW カメラアイ	NEW 生きものセンサー 里山Diary	NEW きらり匠人 継承の技が語る世界	NEW 「春の女神」に会うワクワク感	卷頭特集 跳んで、走って、癒やされて スナバであそぼ。	あーとの森 バードカービング 門永哲郎
34	33	32	30	29	28	22	20	18	15	14	4	2	

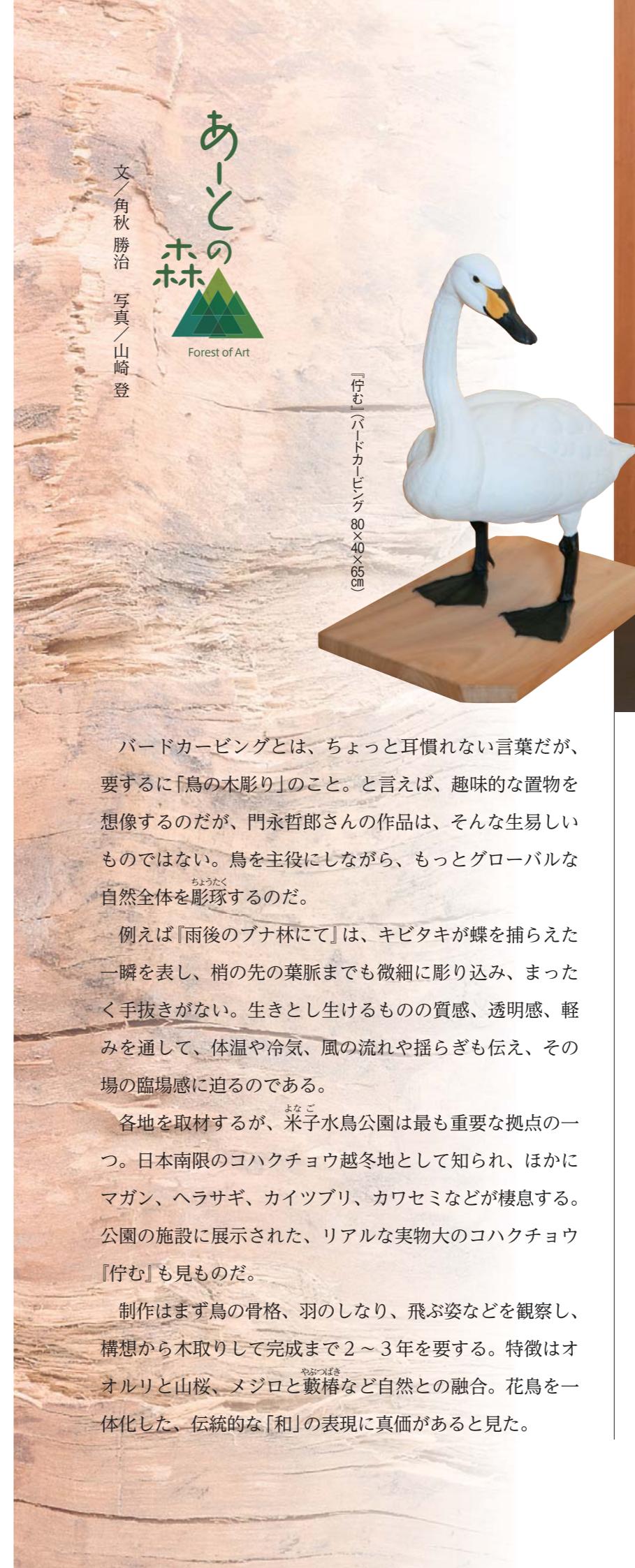
●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。久しぶりに個展を開いた。大山の雪だけ水が世界を廻り流れる旅をメインテーマに、宮城、東京、鳥取の3都県を巡回した。今年の大雪が私に作品を作らせたのだ。



写真提供:学成寺



『佇む』バードカービング 80×40×65cm

文／角秋勝治 写真／山崎登
あーとの森
Forest of Art

バードカービングとは、ちょっと耳慣れない言葉だが、要するに「鳥の木彫り」のこと。と言えば、趣味的な置物を想像するのだが、門永哲郎さんの作品は、そんな生易しいものではない。鳥を主役にしながら、もっとグローバルな自然全体を彫琢するのだ。

例えば『雨後のブナ林にて』は、キビタキが蝶を捕らえた一瞬を表し、梢の先の葉脈までも微細に彫り込み、まったく手抜きがない。生きとし生けるものの質感、透明感、軽みを通して、体温や冷気、風の流れや揺らぎも伝え、その場の臨場感に迫るのである。

各地を取材するが、米子水鳥公園は最も重要な拠点の一つ。日本南限のコハクチョウ越冬地として知られ、ほかにマガ、ヘラサギ、カツブリ、カワセミなどが棲息する。公園の施設に展示された、リアルな実物大のコハクチョウ『佇む』も見ものだ。

制作はまず鳥の骨格、羽のしなり、飛ぶ姿などを観察し、構想から木取りして完成まで2~3年を要する。特徴はオオルリと山桜、メジロと數椿など自然との融合。花鳥を一体化した、伝統的な「和」の表現に真価があると見た。



『雨後のブナ林にて』(バードカービング60×30cm)

命輝く自然のさえずり

バードカービング 門永哲郎



Tetsuro Kadonaga

かどなが・てつろう
1959年、境港市生まれ。野鳥を撮影していたが、95年に木彫の制作に移る。97年、バードカービング教室をスタート、同年日本バードカービング協会の設立に参加。02年「国民文化祭とっとり」の鳥のフェスティバルをプロデュース。07年、常陸宮殿下に依頼され『コゲラ』を作製、献上。15年増上寺「天祭一〇八」に参加、16年、日本・フランス現代美術世界展に入選。

跳んで、走って、癒やされて
スナバであそぼ。



鳥取県内には鳥取砂丘をはじめ、
海岸沿いに柔らかでなめらかな質の良い砂地が点在する。
近年、この感触をもっと味わおうと、
新たなスポーツやイベントが次々と生まれている。
ただ歩いて眺めるだけではもったいない！
砂を感じ、砂と戯れ、砂に癒やされる。
この夏、極上の遊び場へと進化した鳥取のスナバで輝こう！

文／井田 裕子 写真／田中 良子



スナバで
あそぼ。
01

すなばスポーツ

ダイナミックなプレー続々 砂質生きるビーチスポーツ



通常のテニスとは違い、ボールをバウンドさせない
ビーチテニス。初挑戦でも30分程度でコツがつかめる

体験コートでビーチテニスを教えてもらつた。パドルとよばれるラケットで、ボールをバウンドさせずに空中でラリーする競技。初めてながら、砂の上だから転んでも痛くないと思うと大胆に動け、ラリーを続けることができた。

「砂のまちで砂まみれになつてスポーツしたり、ビーチスポーツの国際試合を見たりできるようになれば」。岸本さんは、「2000～3000人が入れる砂のスタジアムを造る」ことを大きな目標に、「スナバ県」の発展を支えていく。

グループで楽しめるビーチバレー。親しみやすく和気あいあい

作れるのでは」と2015年4月、任意団体「すなばスポーツ」を立ち上げた。ビーチサッカーだけでなく、ビーチテニス、ビーチバレー、ビーチヨガなど砂の上で行うスポーツのほか、水鉄砲大会など、鳥取砂丘や周辺の砂浜を使ったイベント企画・運営している。

そのうちの一つ、鳥取市福部町の岩戸海岸で昨年10月に開かれた「スナバビーチスポーツフェスタ」に参加した。ラテン系の陽気な音楽が鳴り響く中、太陽の日差しと海風を受けながら、たくさん的人がボールを追って歓声を上げていた。オーバーヘッドなどダイナミックなプレーが繰り広げられるビーチサッカーは、見ている方も白熱する。



「鳥取の砂質の良さは全国に誇れる宝。砂を生かしたスポーツに活用していくことで人を呼び込み、活性化につなげたい」と意欲を燃やす岸本さん

砂浜には日焼けした肌がよく似合う。鳥取からさまざまにビーチスポーツを発信する「すなばスポーツ」代表の岸本雄司さんは「砂の上でのスポーツをはじめ、いろいろな活動をすることで、スナバのまち・鳥取を盛り上げていきたい」と、小麦色のさわやかな笑顔で語る。

鳥取砂丘という一大観光地のある鳥取県。「砂丘で楽しめることを発信していくば、地方が潤う仕組みを

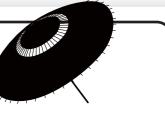
なったという。

主催の関西リーグに出場。年々、参加チームが増えるなど全国的な盛り上がりを見せる中で、「鳥取からもチームを出したい」と考えるようになつたという。



ビーチサッカーでは大胆なプレーが続出。
転んでも怪我をしにくい安心感がある

問 すなばスポーツ
☎ 080-6304-1241
WEB <https://sunabasports-tottori.jimdo.com/>



スナバで
あそぼ。
02
鳥取しゃんしゃん
FESTA!

さすが、伝統的な雨乞いの傘踊り。フェスタ当日は、一時は視界がかすむほどの土砂降りに見舞われた。しかし、徐々に雨足は弱まり、しばらくすると雲間から日差しが漏れ出しだ。

「鳥取砂丘」と「しゃんしゃん傘踊り」。鳥取県の「2大シンボル」悪戦苦闘しながら傘踊りを初体験



悪戦苦闘しながら傘踊りを初体験

“2大シンボル”がコラボレーション

がコラボレーションする「砂丘しゃんしゃんFESTA！」。鳥取の自然環境と文化の素晴らしさを発信しようと、しゃんしゃん祭りの踊り子連有志を中心とした実行委員会が企画し、2015年から始まった。

翌年7月に開かれた2回目のFE

STAには、踊り子連や家族連れなど約60人が参加。連の一端に加わって砂の上で踊る感覚を体験した。

「ハイハイハイ、それ！シャンシャンシャン♪」。威勢のいい掛け声が

広大な砂丘に響く。民謡『きなんせ節』や『平成鳥取音頭』に乗せて、赤、青、金色の鮮やかなしゃんしゃん傘

が涼やかな鈴の音を鳴らしてキレ良く回る。

息の合った踊り子たちの舞を横目に振り付けを教わるも、足の運びに集中すれば傘が止まり、傘を回す手に気を配れば足が遅れる。思うように踊れず顔もこわばるが、裸足に触れる砂の感触はなめらかで、海風を受けてステップを踏むのは、とても心地よかつた。



広々開放空間で咲く傘の華

踊り子連のパレードが円となり、砂丘に傘の大輪の華が咲くと、近くを歩いていた観光客が手にしていた雨傘を開き、見よう見まねで傘踊りに共鳴していた。

実行委員長の松下沙知さんは「参加者からも『開放感があつていい』と好評で、今後は、一般の参加者をもっと増やし、夏祭り以外でも傘踊りを楽しんでもらいたい」と話す。見てよし、一緒に踊つてよし。しゃんしゃん傘の輪が、風紋のように砂丘の風物詩のひとつになる日も遠くないかも知れない。



「砂丘で傘踊りを見たり体験したりできれば、観光客の楽しみが増えるので、イベントを毎年継続していきたい」と話す松下さん

間 砂丘しゃんしゃん実行委員会
☎ 080-6304-1241
WEB <http://www.acousticd.com/syansyanmaturi/>

雨上がりの砂丘に華やかに咲いた傘の花。
夏祭りの一斉踊りとはひと味違う風情が味わえる





スナバで
あそぼ。
03

ファットバイク

自然の中を豪快に駆ける



波の上をバシャバシャと豪快に走り抜けるファットバイク

クセになる爽快感!

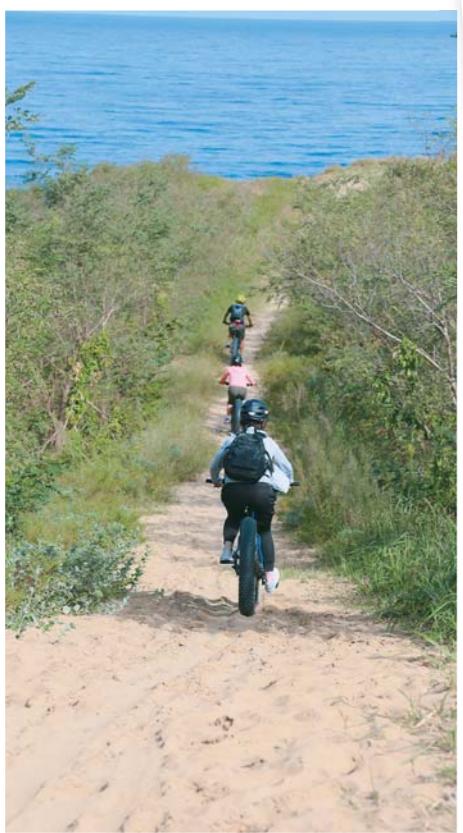


松林の中のコースでは木々の息吹を感じてリフレッシュ

このツアーやを主宰するのは「TRAIL ON」代表の小椋宣洋さん。金髪のチリチリヘアが受付場所の目印だ。趣味でマウンテンバイクに乗っていた小椋さんは3年ほど前に、雪上を走る用途で開発された極太のタイヤが特徴のファットバイクを購入。使っているうちに雪だけでなく、砂地や岩場なども走れることに気付き、「鳥取砂丘で乗ったら楽しいだろうな」と考えた。

自身が走る方法を摸索する中で、かつて馬車が通っていた砂丘内の道が使われていないことを知り、それを整備して2016年4月から事業化。8月には、砂丘と反対側にある山道を通って、東側の海岸へと抜けたコースも新たに追加した。

まずは、砂丘の入り口で砂上を走る感覚をつかむ。斜度16度の急斜面を一気に駆け降りると「あー、爽快！」と叫んでいた。一方、山道は切らして登った後は、かなりのス



風を切り、海に向かって一直線に駆け下りる。この上ない爽快感だ



コースの一部には波が鏡のようになる場所があり、写真スポットとして人気という



「ファットバイクの楽しさをもっと広めて、鳥取の体験観光のひとつとして定着させたい」と小椋さん

問 TRAIL ON
☎ 080-1649-1796
WEB <http://www.trailon.jp/>

ピードで坂道を下る。道路を渡つて海岸に出ると、見渡す限りの水平線が広がっており、ますますハイテンションに。「波打ち際が走りやすい」と小椋さんは。言われるままに進むと、バシャーンと波を思い切りかぶつてしまう。自転車が濡れたことを謝ると「気にしなくていいんですよ！たまには真剣にバカしましょう」と、ニカッと笑ってくれた。

約2時間のコースで砂丘、山、海水を走り抜ける大満足のアクティビティ。体験後、体中が砂と海水と汗にまみれていたが、それが何だ！この気持ち良さはたぶんクセになる。

※鳥取砂丘は山陰海岸国立公園の特別保護地区に指定されているため、許可を得ない場所での車両の乗り入れは禁じられています。



自然のエネルギーをチャージ

A group of people are practicing yoga on a sandy beach at sunset. In the foreground, a woman in a white t-shirt and black pants is performing a side plank pose, her right arm extended upwards and her left leg lifted. Behind her, another person in a blue shirt and black pants is also in a side plank pose. To the right, a person in a red shirt and black pants is seen from behind, also in a side plank. The background shows the ocean under a clear sky.

石谷さんの教えのもと、
ヨガのポーズを次々と決める

A wide-angle photograph capturing a group of approximately ten people performing yoga poses on a vast, sandy beach. The individuals are positioned on colorful mats (pink, green, orange) and are in various asanas, such as Downward Dog and Child's Pose. The setting sun is visible on the horizon, casting a warm, golden glow over the ocean and the sky, which transitions from a deep blue at the top to a vibrant orange and yellow near the horizon. The foreground is dominated by the light-colored sand.

空のグラデーションが刻一刻と変化していくなか、自然の音だけに耳を澄ませていると、不思議と心が静かになっていく

「砂丘は毎日来っていても、違う表情を見てくれる。ヨガを通じてその素晴らしさを伝えたい」と石谷さん

足裏や背中に感じる砂の温かさ。茜色の日差しを受けて大きく息を吸い込む。「ああ、気持ちいい」。鳥取砂丘の大自然の中でリフレッシュできると人気の「砂丘ヨガ」。日本海に沈む夕日が見られるサンセットヨガを体験した。

問 砂丘YOGA
TEL 080-5756-4450
WEB <https://www.sand-dunes-yoga.com>

東京都出身の石谷さんは、結婚を機に2001年に鳥取市へ移住。転機が訪れたのは11年、乳がん検診で「疑わしい」と診断され、そこに東日本大震災も重なった。乳がんの検査結果は陰性だったが、何かに生かされたような気がして、「やるべきことがあるのでは」と一念発起。

以前から「砂丘は素晴らしい所なのに、ただ馬の背（※）を登って降りるだけではもったいない」と考え

かせば、心に溜まつたモヤモヤがス
ーツと流されていくようだ。「砂丘
の大自然からいい氣をいただいて、
元気になつて、私たちが地球を照ら
す光となりましよう」と石谷さん。
日がすっかり落ちる頃には、なんだ
か清々しい気分に。まさに淨化、こ
んなにも癒やされるとは。砂丘は私
に優しかつた。

海風に吹かれながら砂の上で体を動
この日は絶好の「夕焼け日和」。
観光客からも注目されている。
サンセットヨガのほか、朝日を浴
びるサンライズヨガなど5つのコー
スを用意。時間によって異なる表情
を見せる砂丘に魅せられて、リピー
ターも多く、香港や韓国など海外の
の資格を取得し、14年から砂丘ヨガ
を事業化した。

民営国民宿舎「ニユ一砂丘荘」前
の道を進み、松林を抜けて砂丘へ入
る。広くならかな砂地を前に、「目
を閉じて少し歩きましょう」と「砂
丘YOGA」代表の石谷依利子さん。
そつと歩き出すと、裸足にサラサラ
とした沙の感触が心地いい。

ていた石谷さん。砂丘の魅力を広めようと県のイベント支援事業「鳥取砂丘新発見伝」に企画を提案する。





ここにこの

Human
Life



CMディレクター
浜崎

Hamasaki
Shinji



文/日高 むつみ 写真/萱野 雄一

与えられたのは15秒～30秒。
限られた時間の中で、
例えば、ある人が辛い状況に陥った時でさえ、
思わず見入って笑ってしまうものを作れるか。
それを考え続けて20年近く。
浜崎さんの手がけるCMはいま、
見る人ひとりひとりの記憶に刻まれ続けている。

里山の生きものにアンテナを張り巡らせ、
日々奔走する桐原夫妻の日常をエッセーと写真で紹介。

文/桐原 真希 写真/桐原 佳介



絶滅危惧種「ギフチョウ」。生息地が年々減少しているが、
豊かな里山が残る南部町には今も息づいている



—K原さんちの里山Diary—



ミヤコアオイの葉(写真上)を裏返すと
見つかるギフチョウの卵。
卵の直径は1mm程度(写真下)



『春の女神、に会うワクワク感

毎年、ソメイヨシノの初認日を迎える頃になると、私たち夫婦は「今年も『春の女神、を探しに行かなきゃ』と地図を広げる。『春の女神、』とは、絶滅危惧種「ギフチョウ」のこと。氷河期の生き残りで体が毛深く、昔は里山に広く分布していた蝶だが、乱獲や環境変化によって年々、生息地が減少している。

学生時代はギフチョウに会うために、住んでいた千葉県から、はるばる山形県まで出向いていたが、今はなんと自宅から自転車でスイスイ行ける場所で舞っているのだ。ああ、なんて贅沢な環境。市街地からでも車で20～30分でギフチョウの生息地があるのは、全国の分布域でも珍しい。

私たちはこの10年程、南部町内の野生生物の記録を残すため、ギフチョウが卵を産み付けるミヤコアオイという植物の自生地を訪ね、真珠のような小さな卵や飛んでいる姿を確認している。花見の季節とリンクした期間限定の調査は、時間との闘いだ。

「ヤマザクラの蜜を吸う様子を撮りたいなあ」「産卵シーンに立ち会いたいなあ」「新たな産卵地が見つかればいいなあ」…2人であれこれ思いを巡らせて、ワクワクそわそわ。行く先探しは、我が家の春の風物詩となっている。



Profile

- ▼きりはら・まさ=東京農業大学農学部卒業。1996年から自然観察指導員として活動。里山関係の体験事業を行う「もりまきフィールドネットワーク」代表。2児の母。
- ▼きりはら・けいすけ=東京農業大学農学部卒業。1999年に転職で神奈川県から米子市に転入、2003年に南部町へ移住。現在、米子水鳥公園主任指導員。野鳥をテーマとした環境教育活動や調査研究、湿地保全活動などに従事する。

偶然の「出会い」が導いたCMの世界

桃太郎、浦島太郎、金太郎が主役のKDDI auの「三太郎シリーズ」、アニメ「ハイジ」の世界が舞台の「家庭教師のトライ」など、一度見たら忘れられないCMを世に送り出しているのが、浜崎慎治さん。



「家庭教師のトライ」の編集作業。トライさんの声の正体は実は浜崎さん

KDDI au「三太郎シリーズ」は、年間撮影本数が通常のCMに比べてかなり多い。
これまでにもさまざまなシーンが視聴者の笑いを誘った



記憶に刻まれるCMを

探り続ける「心動かす15秒」

「評価されたことに手応えを感じた。この世界って賞をもらうとたんに周囲の見る目が変わるんですよ。『お、あいつオモシロイやつらしいな』って」

そこで冷静に自分に問い合わせた。「これから何を作っていく?」と。答えはやはりCM。「凝縮された時間でインパクトを残せるものが好きなんだ」と気づいた。

そして受賞作品を携え、尊敬する作り手のいるCM制作会社の門を叩く。そこでCMプランナーとして2年間を過ごすが、待てど暮らせどCMディレクターになれる

気配はない。「何もしなければこのままだ」と気付き、再び勝負に出る。それが実家のCM制作だった。

「自腹でこつそり作って鳥取のテレビ局でオンエアした。業界広しといえど、こんなことしたの僕くらいじゃないかな」

そのCMに登場するのは尾頭付きの鯛のお造りと醤油だけ。低予算でアイデア勝負の1本だ。制作にあたっては日頃の浜崎さんの仕事ぶりを認めていた東京のプロデューサーが協力、オンエアにあたっては地元の親戚がサポートしてくれた。



2016年ACCでKDDI au「三太郎シリーズ」がグランプリを獲得、表彰される浜崎さん

その時々の状況とリンクして思い出に

「賞がすべてではないけれど、認めてもらえたのは嬉しい」。次第に社外からも次々とオファーが来るようになり、ACC授賞者の常連に。2016年には前述の「三太郎シリーズ」でグランプリ獲得の快挙を遂げた。

*1 プロダクションマネージャー=映像制作会社でCMやテレビの企画や制作を担当。現場でも事前準備の段取りや、撮影や仕上げなどを統括して行う。

*2 CMプランナー=クライアントの意向を受けて、テレビCMなどのプランニングを行い、テーマや方向性を決める。

*3 ACC=一般社団法人全日本シーム放送連盟。テレビ、ラジオCMを対象にした広告賞として1961年から毎年「ACC CM FESTIVAL」を開催。日本最大級の広告賞として広く認知されており、ACCグランプリ(総務大臣賞)は広告関係者の大きな目標となっている。

「CMは時代を映し、人の記憶に刻まれるもの。これ、高校生の時に見たなあとか、失恋した時、これ流れてたなとか。思い出とり崩しますよね。それに生きていれば、辛い時が誰にもあります。その時、ふとCMが目に入つてクリスリと出来たら、少しだけれど心が温まるんじゃないかと。だから僕は基本、「笑い」をベースに作つていいたい」

たかが15秒、されど15秒。「誰かの心を動かし、笑顔にする」。これを糧に、浜崎さんの頭は365日フル回転、笑いを追求し続ける。

浜崎さんは鳥取市にある創業110年の造り醤油屋に生まれた。小さな頃から人を笑わせることが好きな少年だったが、その頃はCM業界に進むことになるとは夢にも思っていなかった。

「東京農大の醸造科に進んだ3つ上の兄がいて、僕は後継ぎ問題には無縁。当時はとにかく地元を出たくて。だから大学進学というワンチャンスを逃すものかと」

進学したのは埼玉大学建設工学科。もともと建築系が好きで卒業後もその関係に進むつもりでいたが、当時は就職氷河期。就職試験に落ち、進路を絶たれた時に偶然

新卒入社を果たしたCM制作会社では2年間、プロダクションマネージャー(※1)を務め、自宅に帰る間もない日々が続く。「要是は使い走り。とにかく忙しかつたけれど、CM制作に関わる職種全般がわかったことは収穫だった」

評価を得るには作品の受賞のみ

目にしたのが、写真と広告クリエーターの専門誌だ。広告に対する興味が沸き、CMという未知の世界に舵を切った。



構想段階で描く絵コンテ。細かい台詞も1コマずつ大まかに想定している

初めて制作した映像作品は3分ほどのミュージックビデオ。これがアマチュアのコンクールで受賞を果たす。

浜崎さんは、映像作品を撮った経験もなく、ステップアップしたくてもできない状態。そこで思い切って会社を辞め、作品作りに専念することにしたという。

いたのがCMディレクターの仕事。脚本家にあたるCMプランナー(※2)の企画に沿って案を練り、具体的な映像に仕上げる。映画でいえば監督だ。しかし当時の浜崎さんは、映像作品を撮った経験もなく、ステップアップしたくてもできない状態。そこで思い切って会社を辞め、作品作りに専念することにしたという。



歴史ある勇壮な漁船パレード

写真／徳丸 正巳（米子市）

撮影場所／境港市

1946年から毎年夏に開催されてる境港市の「みなど祭」。終戦直後に漁港の復興と大漁を祈願して始まった。大漁を祈願する「海上パレード」は、境港・米子港の約60隻が参加。神輿や太鼓を乗せて境水道を運行する様子は、勇壮で見応えがあり、毎年多くの見物客でにぎわう。

きらり匠人

継承の技が語る世界

日本独自の伝統を守り、技術を受け継ぐ
県内の「光る匠たち」を紹介します。

「もうひと人生欲しいくらいです」…県内に残る最後の刀職人・金崎秀壽さん(72)は言う。鍛冶屋の9代目として60年近くキャリアを積み、これまで550振り以上の刀剣を打ってきた金崎さんをして、今なお精進しか頭にないからこそこの言葉である。

刀職人 金崎 秀壽

戦前、名工として名をはせた父・壽光さんの手ほどきを受け、刀匠の道に入った。特に、刀身に彫刻を施す技を得意とし、浦島太郎が岩上に立つ姿の彫り物で有名な脇差、鳥取藩主・池田家ゆかりの「浦島虎徹」を再現。完成披露展示には、「刀剣女子、をはじめ全国からファンが押し掛けたほどだ。

本来、武器である刀を今の時代に作り続ける理由を尋ねると、「言ってみれば、刀はただの鉄。でも、その鉄を鑑賞する民族は日本人くらいだと思う。それは、研ぎ澄まされた鉄の透明感に、自らの魂を重ねることが出来るからで、そこが最大の魅力です」と、精神性を強調する。

「刀は、鎌倉時代が頂点なんです。なぜ、あんな刀が作れたのか、謎が多い。そこに、一步でも近づけたらと思うのですが」と金崎さん。時には、江戸時代の鉄を溶かし、いにしえの鉄を求めながら刀づくりに挑む姿は、終点のない職人の道そのものに見える。

文／稻嶋 正彦 写真／田中 良子

連綿と続く終わりなき道

刀に施す彫刻は、花鳥風月、龍など多種多様な文様がある立体的な造形美術。この技術を金崎さんは独自で学んだ



1本完成するまでに3~4ヶ月要する。
全ての工程が終り、刀掛けに置いて
ようやく達成感に包まれるという



日本刀の材料の砂鉄と玉鋼。玉鋼は山や川などで集めた砂鉄を炉で熱して作る

MEMO

日本刀づくりには、鉄を製品に加工する刀鍛冶、刀に梵字・装飾図を彫る彫師、鞘を作る鞘師が関わることが多いが、金崎さんは、これらの全てを手がけている。特に彫刻の技術は、独学で徐々に腕を磨いたという。



刀を見つめる金崎さんの眼差しは鋭く、少しの妥協も許さない職人の気迫がみなぎる

フレキシブルな僧侶たち

「ココに来ればいいことあるよ」
自由にのびのび発信



音楽イベント 開きアピール

とう せん じ そう や
東善寺・金田 宗也

元の音楽仲間たちが「面白そう」と賛同、浄土宗青年会からも資金・人員の両面で協力が得られ、実現へとつながった。

当日の日中は、写経や数珠作り、納棺体験のほか、お坊さんコスプレ体験、飲食の屋台など、趣向を凝らしたイベントが盛りだくさん。ライブ前には、浄土宗の念仏と和太鼓のコラボレーションが披露され、新しいタイプの融合に、仏教へのイメージが変わった若者もいただろう。初イベントだけに不安も大きかったといふが、当日は老若男女がどっと詰めかけ、対応に困るほど。次期開催を望む声が多く届いた。

「1回目はちょっと手を広げすぎて、てんやわんや。次はもっとコンパクトにして、入場料の設定や協賛募集も考えなければ」と金田さん。反省を踏まえ、今秋2回目の開催を目指し企画中だ。

「肩ひじを張らない、親しみやすい僧侶でありたい」という。「仏教の学術的な面を追究しすぎると、一般的の感覚から遠ざかってしまう。自然体でいるためにもライブを続けていきたい」。昔のお寺のように、近所の人があらつと立ち寄り、お茶を飲みながら世間話をするような場所であるために。

若き僧侶は、音楽の包容力をもつて、その理想を叶えようとしている。

寺を地域住民の居場所に

2015年6月、鳥取市賀露町の東善寺で音楽ライブをメインにした「TERAKOYA FESTIVAL」が開催された。8組の実力派アーティストたちが次々と出演する充実の内容。特に本堂での夜のライブは、ご本尊である阿弥陀如来像がスピリチュアルな雰囲気のなか、アーティストの力強い歌声が聴衆の胸を打った。

ライブを企画運営したのは、東善

寺の僧侶、金田宗也さん。「イベントを通じてたくさんの人とつながれたら」との思いで実施した。自身もロックやブルースを愛するバンドマン。大学時代は関西で音楽活動に熱中していたという。

5年前に帰郷、住職の父・隆生さんは「オーラクソングが好きで、以前からお寺で音楽イベントをやっていた。だから今度は、自分の知識と人脈でやってみたかった」。これに地



閑 浄土宗 西接山東善寺
所 鳥取市賀露町496-1
TEL 0857-28-1221
URL <https://www.facebook.com/touzenji.namuamidabutz/>

ヨガ体験などのイベントやライブで大盛り上がりだった「TERAKOYA FESTIVAL」(2015年6月) 写真提供：東善寺

頭は丸坊主、背筋はピン、物静かに話し、決してふざけたりしない徳の高い人。仏教の僧侶といえばそんなイメージだ。でも今は、そうとばかりは言えない。趣味・個性・斬新なアイデアを駆使して、自由に、フレキシブルに、ユニークな活動を展開しているお坊さんが結構いるのだ。その胸に「もっと仏教とお寺に親しんでほしい」という同じ思いを抱きながら――。

「一人とのつなかりを大事にしながら、
するニーズに応えるため、新しい取り
も進めていきたい」と語る宗元さん



問 浄土真宗本願寺派 池中山光澤寺
所 八頭郡八頭町南398
☎ 0858-84-1650
料 宿坊:1泊2食9,000円
WB <http://www.koutakuji.com/>
FB <https://www.facebook.com/宿坊光澤寺>
-792192784142323/

※国民総幸福量=ブータンが独自の国家建設のスローガンとして打ち出した開発理念。国内総生産(GDP)のように経済発展の数値ではなく、心の豊かさを示す「幸福度」を重視する考え方。2年一度、国民数千人をモニターにして調査する。

「タン村駄」になり、光澤寺ではJ.I.C.Aブータン事務所・前所長の朝熊由美子さん、ブータン写真家の関建作さん、冒險家の中尾和則さんの3人を招いてトークイベントが催された。本堂はほぼ満席の大盛況で、終了後の交流会もゲストと一緒に盛り上がったという。

形として見えるものではないけど、でも確かに存在している「やづブータン村」。そこは、求める者にだけ与えられる『理想郷』なのだ。

こう たく じ むね もと ひで とし
光澤寺・宗元 英敏

いくつかある体験メニューの中
で、宗元さんが「ぜひ」と勧めるの
は「こころの授業」。心とは何か、
はじめにそれを理解しておくと、他
の体験の意味や目的がよく分かるか
らだという。「ストレスフルの多く
の人は、同じ思考回路をずっと行つ
たり来たりしている。だから瞑想や
対話によつて、別の回路に導いてあ
げる。すると今までと違う角度から
物事を見ることができ、出口の光が
見えてくる」。

安らげる“幸せの理想郷”へ

なるほど、少し聞いただけでも説得力がある。光澤寺のWEBサイトには、来訪者たちのスッキリした笑顔の写真が並ぶ。宿坊と住職の存在に救われている人は多い。

宗元さんがお寺と住職の立場とは違う切り口から、「人の幸せ」にアプローチしているのが「やずブータ

ン構想」だ。「国民総幸福量」(※)という独自の尺度で本当の豊かさを考える南アジアの王国・ブータンに習い、地元の人だけでなく、誰もが心安らげる故郷をつくろうというものだ。

だから「いつでもつながれるけど、すぐに離れることもできる。離れていても、心のよりどころ」そんな故郷像を掲げながら、自由な発想で人と地域の未来を考えている。

毎年「やすブータン村まつり」を開催。日本・ブータン外交関係樹立

でガッチリ縛られるのはイヤ」という人が多い。「新しい形のネットワー
クが必要だと強く感じています」と

寺社ブーム、御朱印ブームにのっこり、宿坊を巡る人が多くなっている。現代社会は心のストレスを抱える若者が多いうのも、ウケている理由の一つが、ここ八頭町の光澤寺だ。寺経・瞑想・読経・絵手紙・仏教講座など体験メニューが豊富で、日帰り体験も可能。のどかな田園風景、美味しい精進料理も好まれ、国内だけ

「ストレスを抱えた20～30代のひとり旅女性が多い」と住職の宗元英敏さん。「まずは訪れた人と雑談から始めます。そのうち、悩みすぎて固まっていた心の塊が溶け始める。思いどおりにならない事柄を受けとめて『心を流す』作業が第一段階」。それが光澤寺での最初の癒やしだ。

光澤寺の玄関には宿坊とブータン村の両方の看板が掲げられている



すっかり恒例となった「やすブータン村まつり」では常連メンバーも多く、食事付きのトークイベントは大盛況=写真提供:光澤寺

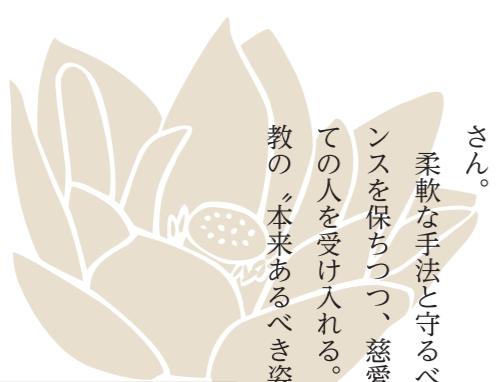




好きな歌の歌詞や小説などのワンフレーズをピックアップしたカード。「自分が感動した言葉は、他の誰かにも伝えたいから」という。来訪者が気に入ったカードは持ち帰りOKだ



毎年6月に開催する「花祭りライブ」。多彩なイベントに幅広い年代が訪れ、交流の輪が広がる=写真提供:学成寺



間 日蓮宗 光照山学成寺
所 鳥取市新品治町73
☎ 0857-22-3449
テレホン法話:0857-22-3451
WEB <http://gakujiyouji.com/>

あの手 この手で 柔らかく説法

代の頃、「『難しい言葉ばかり使わず、ちゃんと自分でも分かる言葉で話しなさい』と、師匠に叱られましてね」、当時を思い出してもう笑う。佛教界全体が自己満足に浸り、人々の脇に落ちる言葉で説いてこなかつたことが現代の「寺離れ」につながっているのではないかと、自戒を込めて振り返る。

都さんは話術も巧み。軽妙なトトクに引き込まれ、知らぬ間に笑顔になる。電話をかけると法話が聞ける「テレホン法話」も面白い。「時候の豆知識や話題のニュースなど、いろ

んなことを話します。ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの話もしたかな」。約2分ほどの話を毎月1日に内容を更新。聞いてみると、「普段お寺に足を運んだことがない人を呼び込みたい」と、毎年6月には本堂で「花祭りライブ」を催す。今年で14回目、常連客も多い。友人のバンドに出演してもらうほか、自身もマイクを握ったり、マジックショーありと、にぎやかだ。幼児を連れた母親たちも来ており、「檀家さんでなくとも、若い世代が関心を持つてくれているのがうれしい」と都さん。

とにかく饒舌な都さん。取材の中でも最も興味深い説法が次々飛び出し、聴者を惹き付ける

日本の葬儀と 墓をチェンジ



宿坊の部屋は、和洋折衷のモダンな設え。静かに心を整えることができそうだ

宗元さんの柔軟な発想は、まだまだ留まらない。今春から新たに打ち出しているのが「お墓プロジェクト」。都会では、高額かつ管理が大変な墓地は持たず、永代供養墓や樹木葬といった葬儀・供養のスタイルが主流になりつつある。そこで東京周辺の人々を主なターゲットに、通夜・葬儀・四十九日・納骨堂（永代供養）を1セットとしたプランを提案し、リーズナブルな価格で売り出そうというのだ。納骨堂には四季折々の花が咲き誇るガーデンをしつらえ、庭を眺めながら一息つけるカフェも備えようと考えている。

「私の夢は、日本の葬儀とお墓を変えること」と宗元さん。変化が苦手な業界だけに、思い切ったチャレンジにエールを送りたい。

「夫婦2人だけの墓で」「自分ひとりで」「ペットの骨と一緒に」など、従来型には納まらない墓を希望する人が増えているので、今後のニーズは高いはず。計画は、檀家が減る一本葬といった葬儀・供養のスタイルが主流になりつつある。そこで東京周辺の人々を主なターゲットに、通夜・葬儀・四十九日・納骨堂（永代供養）を1セットとしたプランを提案し、リーズナブルな価格で売り出そうというのだ。納骨堂には四季折々の花が咲き誇るガーデンをしつらえ、庭を眺めながら一息つけるカフェも備えようと考えている。

宗元さんと宿泊者がいろいろな話をできる談話室。包み込むような温かい雰囲気に満ちている

学成寺・都 泰雄

「皆の宗 臨機応変派のお寺です」「憂破破 和波波 豊いを破り、和の波をひろげよう」とユーモアのあるキャッチフレーズを掲げ、黒・白の阪神タイガースカラーを基調とした軽快なデザインのWEBサ

イトで情報発信するのは、鳥取市の中心街にある学成寺だ。格式高さを演出する寺院のサイトが多い中、ここまで碎けているものは珍しい。

「お寺に気軽に来てほしいし、サコまで碎けているものは珍しい。」

イトを見て元気になつてもらいたい

「仏教を分かりやすく伝える」との重要性をずっと意識してきたといふ。日蓮宗の修行に励んでいた20



民芸で設えられた店内で、丁寧に作られた料理を民芸の器でいただく。たくみ割烹は、かの吉田璋也（※1）が鳥取で築き上げた新作民芸を五感で味わえる料理店。店主・阿部一郎さんのいう『実践的美術館』なのである。

創業1962年当初からしばらく、主なメニューは刺身や煮魚の定食。客層は限られていた。しかし20年前、阿部さんが店を引き継ぐと、メニューの改善に着手。かつて来鳥したバーナード・リーチ（※2）が残したというレシピをヒントに、「鳥取和牛みそ煮込カレー」をランチに考案した。名物の「鳥取和牛のすすぎ鍋」から出る「鳥取和牛オレイン55」（※3）の切り落としやロースをたっぷりのタマネギとコトコト煮込み、スパイスとニンニク、岩美町産の生姜と鳥取市内の老舗味噌店の味噌

で調えた。やさしい辛味と深みがあるまろやかな味が、若い層にも支持されている。隣に『たくみ工芸店』が、そのまた隣に『鳥取民藝美術館』が並ぶこのエリアは、鳥取新作民芸の聖地のよう。「当店で食事をし、工芸店で買い物をし、その足で美術館を訪れて欲しい。セットで民芸を味わって」と阿部さん。生粋の料理人が作り出す味は、民芸という空間に実によく映える。

※1 吉田璋也(1898-1972)=鳥取市の医師で、鳥取新作民芸のプロデューサー的存在。

※2 バーナード・リーチ(1887-1979)=イギリス人の陶芸家・画家で、日本の民芸運動に参加した。

※3 鳥取和牛オレイン55=脂肪中にオレイン酸を55%以上含有する鳥取和牛「気高」号の血統を引き継ぐブランド牛の肉。オレイン酸は口溶けの良さに関係する。

文／矢倉みゆき 写真／山内一峰



■■鳥取和牛みそ煮込カレー■■

鳥取和牛みそ煮込カレー1080円。
お味噌汁、サラダ、香の物、コーヒーorフルーツorヨーグルト付き。
カレー皿「国造焼(倉吉市)」、サラダボウル「中井窯(河原町)」、香の物皿「山根窯(青谷町)」。



たくみ割烹
所 烏取市栄町652
0857-26-6355
営 11時30分～14時30分
(LO14時)
17時～22時(LO 21時)
※日・祝は21時(LO 20時)
休 第3月曜(8月・12月は無休)

成熟したもろみを搾る木槽。サクラの木で作られており、どっしりとした重厚感が年代を物語る



美人ぞろいの「まち娘たち」

太田酒造場(若桜町)

地元の米や水や人が「娘」を大切に育てている。銘酒『辨天娘』だ。近くに鎮座する若桜弁財天の徳にあやかろうと、太田酒造場が名付けた。そのさわやかでキリリとした風味は、辨天娘の個性的なイメージによく映える。

このイメージを生かし、社長の太田義人さんは酒を仕込む順に、タンクを1番娘、2番娘と呼び、数式で表示することにした。例えば〈H28BY3番娘〉は平成28年の冬の3番目のタンクだ。このほか酒瓶のラベルには米の銘柄、生産者の名前も明記。生産者の励みにもなり、愛酒家も重宝する。

辨天娘は純米酒。一般的に冷やが良いとされているが、ここでは燗を獎める。旨味が増し、肴を選ばない。旨い酒を美酒という。辨天娘は、町の水と米が生んだ美人ぞろいの「まち娘たち」なのだ。

小さめの蔵だがスタッフの五感は鋭く、でかい。応援するファンは、地元はもちろん、全国各地の酒店にも多く、心強い。だから後継者の章太郎さんは、「苦しいけれど、とても楽しんでいます」と感謝の気持ちを忘れない。



酒蔵めぐり
とつどりめぐり



【情報メモ】

1909年に初代が若桜町で創業、出雲杜氏ら蔵人集団が造りを担当。1992年には人員不足、高齢化のため、やむを得ず休蔵に。しかし2002年、新しい担当者が酒造技術指導者・上原浩さんの教えを受け、杜氏になり再開。現在、仕込みタンクは28本。水も米も全て町内産だ。休蔵中に商品化した「なら漬」も好評。

有限会社太田酒造場
八頭郡若桜町若桜1223-2
0858-82-0611
<http://www.ben-ten.sakura.ne.jp/>

文／須崎俊雄 イラスト／谷繁淳子

【問】
公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構
所 鳥取市扇町7
鳥取フコク生命駅前ビル1階
0857-24-4740
http://furusato.tori-info.co.jp/

- ▼IJUターン就職に関する相談
0120-307-238
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
- ▼移住に関する相談
○鳥取県移住定住サポートセンター
0120-841-558
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
- とっとり移住定住ポータルサイト
http://furusato.tori-info.co.jp/iju



[PROFILE]
◎家族構成／夫・タルイユウスケさん、妻・アキコさん、
子ども2人(6歳・2歳)
◎移住前の住まい／大阪府大阪市
◎移住時期／2012年6月
◎現在の仕事／Cooking Labo Vesta主宰・調理師



コーヒーはミルで豆を挽き(写
真上)、粉に少量のお湯をゆつ
くり注ぎ、蒸らして濾らませ
ながらドリップする(写真下)

「おうちにはいつもLIVE KITCHEN」では、
『おうちはいつもLIVE KITCHEN』では、
さまざまなおいしさが見えてくる
動画でわかりやすく解説されている

いことに気付きました」。

新天地では14年10月、オーナーとして町内にカフェをオープン。営業を続ける中で自身の想いと現実に差を感じ始めた。ある時、行きつけのカフェのオーナーから「教える側になつてみては?」と提案される。実際に料理教室を開催すると、食材の切り方など自分が当たり前にしている簡単な基礎ほど大きな反響があった。「今はインターネットなどで、レシピやアイデアを簡単に入手できますが、料理のイロハを教わる機会がなく、独学で料理している人が多いことに気付きました」。



「おうちはいつもLIVE KITCHEN」では、
『おうちはいつもLIVE KITCHEN』では、
さまざまなおいしさが見えてくる
動画でわかりやすく解説されている

いことに気付きました」。

そこで16年3月、レストランを置み、作る側から教える側へと転身。「基本をマスターすると、味に格段の差が出ます。『基礎＝美味しくなる方程式』を伝えたい」(タルイさん)現在、住宅設備メーカーやガス供給会社など、企業とタイアップした料理教室を開設。春には島根県松江市のメーカーのショールームで、月1回の教室をスタートさせた。また、いつもでも自由に学べるように動画も活用したWEBサイト「おうちはいつもLIVE KITCHEN」を無料で公開している。

「料理することの楽しさを発信し、料テキストとして公開している。全国や海外へ裾野を広げたい」と話すタルイさん。Iターン6年目。山陰をステージに、活躍の場はますます広がりそうだ。

料理の基礎に軸置き、 コソッと楽しナーブ元気



美味しさには方程式あり

調理師専門学校を卒業後、大阪や神戸の中国、ベトナム、イタリアなど各国料理店の厨房で腕を磨つていたタルイさん。料理人として経験を重ねる一方で、結婚後は子育て環境が気にかかっていた。

「僕が子どもの頃には、大阪市内にも遊べる原っぱがあつたけど、今はそれすらない。かねてから自然の多い環境での子育てを夫婦で考えていたので、地方への移住を検討していました」と語る。

西本部で開かれた移住者対象の起業セミナーに参加したタルイさんは、すでに鳥取にIターンしていた素潜り漁師の中村隆行さん(大山町)と意気投合。「大山町内での家探しなどで協力してもらい、かなりスムーズに移住にこぎつけることができました」。

翌12年、タルイさん夫婦は1歳の長女を連れ、海・山・森の自然に恵まれた大山町へと移り住んだ。

◎料理教室主宰・調理師(大山町)◎

タルイユウスケさん

大阪市平野区生まれ

「料理の基礎を学ぶことが、実は上達の早道」——。その信念をもとに開催する料理教室が、今ひそかに話題になっている。大山町在住のタルイユウスケさんは、古くて新しい視点で料理する楽しさを教えてくれる『おいしさの伝道師』だ。



子育て環境にフィット

2011年、大阪市内の鳥取県関

1年に60本以上の講演依頼があり、全国を飛び回る林さん

J A共済の営業をしている頃に綴っていたブログが編集者の目にとまり、出版された「日本になつた田舎の保険営業マン」(カナリア書房)



細身のスーツをきりっと着こなしたその男性の説明で、今まで誰に聞いても今ひとつ理解できなかった保険の契約内容が、すとんと腑に落ちた。顔を上げると、そこには、こちらの生活や将来を当事者目線で考える真剣な眼差しが。これが「日本一の田舎の営業マン」たる所以なのだ。

当事者目線で地域に密着

株式会社リアルコーディネート代表の林直樹さんはかつて、岡山県蒜山地区の人口最少の村でJ A共済の金融・保険営業を担当し、医療保険の部で全国1位を獲得した。わずか住人500人の過疎地で、なぜ日本になれたのか。

「最初は失敗と愚痴の連続。そして考え方を変えました」(林さん)。売り主目線から、徹底した買い主目線での営業方法に転換したという。例えば、大型台風が来た時には一軒一軒回り、どうすれば保険金が出るのかを説明。「保険って結局、『出口』がわかりにくい」という客の疑



12年に現在の会社を設立し、その前年から連續で「MDRT」(※)の会員資格を取得。14年にJ A共済時代の体験を綴った本『日本一になつた田舎の保険営業マン』(カナリア書房)を出版すると、多くのメディアで取り上げられた。

現在は、全国を飛び回って年間60本以上の講演やセミナーをこなし、培ってきた営業ノウハウを惜しみなく伝えるほか、企業の抱える課題を



「相手の立場になって話せるかどうかがカギ。最初の頃は、自分本位でしか営業出来ずダメでした」と林さん

解決するコンサルティング業も。また、企業のPR動画も制作しておられる。このほか「女性のための起業塾」を無料で定期的に開講するなど、保険代理店をメインに幅広い業務を展開している。

幼いころに父親を亡くし、お金の大切さと保険のありがたみを身を持って経験した林さんは、保険営業を生涯の仕事と決め、独立を決意。馴染みがあつた倉吉市で、2010年に保険代理店を開業した。

幼いころに父親を亡くし、お金の大切さと保険のありがたみを身を持って経験した林さんは、保険営業を生涯の仕事と決め、独立を決意。馴染みがあつた倉吉市で、2010年に保険代理店を開業した。

字文の迷宮をゆく



文・イラスト／前田 環奈

たまたま古本屋のあるじだからといって、人が思うほど読書家でもないが、この場を与えたからには、印象に残つた本の話を徒然に語つていこうと思う。第一回は、風に吹かれて行つてしまつた男が詠んだ俳句の話。

10代の頃、「男はつらいよ」が嫌いだった。義理と人情とマンネリと大袈裟なテーマ曲。着たきりの一張羅で快活な笑顔

を振りまく「ブーテンの寅」は、芸術の深みとは無縁の、浅くてダサいものの代表だった。20代も暮れはじめ、当の自分の人生が、さほど深くもなければオシャレでもないらしいことに気付かざるをえなくなつた頃、かつて散々軽蔑した義理と人情とマンネリと大袈裟なテーマ曲に、私はまんまと泣かされてしまった。渥美清演じる寅次郎は、無学だが、人一倍哀

たまたま古本屋のあるじだからといって、人が思うほど読書家でもないが、この場を与えたからには、印象に残つた本の話を徒然に語つていこうと思う。第一回は、風に吹かれて行つてしまつた男が詠んだ俳句の話。

日本中に愛された男の孤独

「風天 渥美清のうた」(森英介著)

しさを知つていて、それでいて陽気で、いいかげんで、優しい。ああ、大人たちは、寅さんに抱きしめてもらつていたのだなあと知つた。

日本中に愛された男は、では、自分の孤独を誰かに委ねることができたのだろうか。渥美清が人気絶頂期に人知れずたしなんだといふ俳句を前に、そう思わずにはいられない。俳号は、「風天(ブーテン)」。その句は、寅さんを思わせる素朴さと軽快さを持ちながら、中空にぱつかり穴が開いたように、寂しい。

「赤とんぼじつとしたまま明日どうする種田山頭火や尾崎放哉(※)に強く惹かれていたという。スクリーンには決して映らなかつた、寅さんでも、渥美清でもない男の背中を見た気がした。

日本中に愛された男は、では、自分の孤独を誰かに委ねることができたのだろうか。渥美清が人気絶頂期に人知れずたしなんだといふ俳句を前に、そう思わずにはいられない。俳号は、「風天(ブーテン)」。その句は、寅さんを思わせる素朴さと軽快さを持ちながら、中空にぱつかり穴が開いたように、寂しい。

「赤とんぼじつとしたまま明日どうする種田山頭火や尾崎放哉(※)に強く惹かれていたという。スクリーンには決して映らなかつた、寅さんでも、渥美清でもない男の背中を見た気がした。

※種田山頭火・尾崎放哉＝自由律俳句の俳人。

■■■ 113号の感想から ■■■
「ここにこの人」で完山美和子さんが掲載されていましたね。いつか取り上げて欲しい方でした。バッグとともに、お洒落で素敵なお人柄の完山さんに毎回、展示会でお会いするのを楽しみにしています。今回の記事で、完山さんの新たな一面がわかり一層ファンになりました。(鳥取県鳥取市 川上 紀子)

前田環奈(まえた・かんな)
鳥取市出身。邯郸堂店主。自分が通いたい古本屋、を鳥取に作るために2012年10月に古本屋「邯郸堂」を開店。古本の販売のほか、陶磁器の修理(金継ぎ)も行っている。

毎号の企業紹介では、「目立たないけど確かな技術を持った優良企業」が、鳥取にはまだあるんだなあと興味深く拝見しております。こういう企業が全国に羽ばたいて、鳥取の名を轟かせてほしいですね。(大阪府守口市 藤中 一志)

卷頭特集で掲載されていた小島基さんの作品を拝見し、形と色彩の素晴らしさ

に感動。しばらく言葉も出ませんでした。まさに奇才ですね。(三重県亀山市 内山 玉雄)

特集記事の神楽を広める熱い活動に感激しました。「郷土に文化を残したい」との姿勢が美しく尊いです。そのほか、鳥取にはものづくりの企業や人が多く、毎号感心しています。(兵庫県たつの市 内海 敏雄)



■■■ 113号の感想から ■■■

「ここにこの人」で完山美和子さんが掲載されていましたね。いつか取り上げて欲しい方でした。バッグとともに、お洒落で素敵なお人柄の完山さんに毎回、展示会でお会いするのを楽しみにしています。今回の記事で、完山さんの新たな一面がわかり一層ファンになりました。(鳥取県鳥取市 川上 紀子)

株式会社 リアルコーディネート

代表／林 直樹
設立／2012年11月
資本金／300万円
所在地／倉吉市東巖城町12 中部建設会館1階
電話番号／0858-23-9202

※MDRT=生命保険と金融サービスの専門家の世界トップ6%で構成する国際組織

読者プレゼント

応募〆切
2017.
6/30
消印有効

■応募方法
貢右上のクイズの答え、ご意見、ご感想とともに希望の商品名と記号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、下記までお送りください。ハガキまたはメールで受け付けています。なお、感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所、氏名が明記されることを了承ください。当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

■プレゼント応募にはクイズへの回答が必須です。本誌を読み、貢右上のクイズにお答えください。

■応募先
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhoren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

●114号プレゼント応募用クイズ●

Q 刀職人・金崎秀壽さんが再現した鳥取藩主・池田家ゆかりの刀の名前は?空欄の3文字に漢字でご記入ください。

			徹
--	--	--	---

113号のクイズの答えは「事代主命」

「特集」の記事中に正解あり。「大国主命」と誤った解答が多数ありました。

A



辨天娘 純米酒／玉栄 (720ml) 【3名】

酒米「玉栄」を使用した、精米歩合75%の純米酒。爽やかさと、キレのある味わいが特徴。若桜町のふるさと納税の返礼品にもなっている。

問 有限会社 太田酒造場

☎ 0858-82-0611

B



大山山麓黒そば(乾麺2食入り) 【3名】

大山町産そばの実の甘皮を多く使い、名峰・大山の伏流水で練り上げたそば。甘皮の香ばしさが口いっぱいに広がり、ゆで汁はそば湯としても味わえる。

問 株式会社 だいせん麺工房

☎ 0859-53-1511

C



奥日野 海藻米 (3合450g) 【5名】

日野町の高地で栽培したコシヒカリ。肥料は境港市の中海で採取した海藻を利用。ミネラルが豊富でふっくらツヤがあり、冷めても美味しい。

問 株式会社 優栽
☎ 0859-72-2320

D



羊かんセット (6個×2) 【5名】

米子市産のサツマイモと、大山町産のはうじ茶を原料とした手作りの羊かん。素材のうま味や香りを生かした素朴な味わい。一口サイズで食べやすい。

問 おおた農園
☎ 0859-33-2386

E



【10名】

あご粉末・あかもく粉末セット (20g×各1)

天然のアゴ(トビウオ)とアカモク(海藻)を粉末にした無添加の水産加工品。アゴは料理のダシに、アカモクは味噌汁の具などに。

問 リヴよどえ福祉事業所
☎ 0859-56-5789

F



組み木パズル 【3名】

県産杉を使用したキューブ型のパズル。さまざまな形のパーツを合わせ、立方体に組み立てれば完成。インテリアにしてもおしゃれ。

問 工房どんぐり
☎ 0858-73-8709

G



エッセンシャルサンフラワーソープ 【3名】

100%県産のヒマワリオイルを使った低刺激、無添加の石鹼。オレイン酸とビタミンEを多く含み、洗い上がりはしっとり。年齢問わず全身に使用できる。

問 フランス雑貨 chou chou シュシュ
☎ 0857-50-0084

H



みささ織ストール 【3名】

三朝町の樹草(ナシ、トチ、ビワ等)で染めた綿糸で織った草木染めのストール。通気性が良く、暑い季節は日焼け対策としても使用できる。

問 アトリエグリシヌ
☎ 0858-43-1116

Editor's note

□■編集後記■□

インターネット(以下:ネット)の全盛で、テレビ(以下:TV)の視聴率は下降傾向と言われて久しい。が、私はTVCムが好きで、番組の合間にも食い入るように見る。たぶん現代の希少種だ(笑)。▼だからCMディレクター・浜崎慎治さん(15頁)が鳥取県

出身者とわかった時は小躍り。しかも同じ高校出身ってなんて縁!▼コレばかりはネットにお世話になり、検索すると「えっあれも!?これも!?'。いま注目を集めれる著名作品の多くを彼が手がけていたのだ。トキメキ度はさらに急上昇! そのほとんどがクスリと笑えて。張り詰めた緊張感でさえ一瞬で和らぐ魔力を持つ。▼「笑いは人を幸せにするから」(浜

崎さん)。「そうそう! 辛い状況だったのに、思わず吹き出したんですよ」と、共感しつつも言葉にできなかったので、ココで伝言です。「15秒の幸せ、をありがとう。こんなファンがいる限りCMは不滅です」▼彼の「産みの苦しみ、で出来た1コマは、今日もどこかで、誰かの心を癒やしているだろう。きっと、そっと、さりげなく。」
【Hi】

とっとり
NOW
鳥取県総合情報誌 vol.114
Summer

企画・編集・発行 鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)
制作 株式会社ジェイ・エス・エス
〒680-1131 鳥取市馬場233-1 TEL.0857-37-4120

0857-26-7086
0857-29-6621

とっとりNOW
http://www.kouhoren.jp/
2017年6月1日発行 定価309円